



Photo:stud

THE SPRING STAKES

第74回 スプリングステークス (GII)

1着 本賞 54,000,000円 付加賞 840,000円
 2着 22,000,000円 240,000円
 3着 14,000,000円 120,000円
 4着 8,100,000円
 5着 5,400,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

牡・牝、3歳
負担重量 馬齢重量

2025.3.16 中山 小雨・重 芝1800m (国際) (指定)

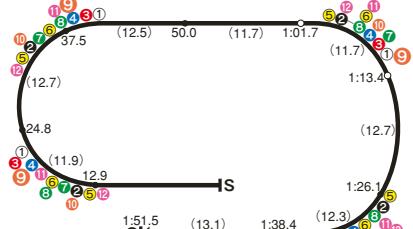
種馬	馬名	性	年齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1 ⑨	ビコチャンブラック	牡	3	57	石橋 梢	1:51.5	3-3-1-1	38.1	488(-2)	4.1②	上原佑紀(美浦)	112
2 ⑩	フクノブルーレイク	牡	3	57	松岡正海	クビ	9-9-5-3	37.6	452(±0)	13.0⑦	竹内正洋(美浦)	111
3 ⑦	キングスコール	牡	3	57	藤岡佑介	1% 8-8-3-3	38.1	496(+2)	3.8①	矢作芳人(栗東)	108	
4 ⑧	マテンロウバローズ	牡	3	57	横山典弘	クビ	6-5-7-8	37.8	478(-2)	5.7④	昆 貢(栗東)	108
5 ⑫	スワローシャー	牡	3	57	田辺裕信	% 12-12-10-8	37.5	460(-4)	21.9⑧	相沢 郁(美浦)	108	
6 ⑪	スナークビカロ	牡	3	57	菅原明良	クビ	5-5-7-8	38.0	468(-4)	70.8①	高橋一哉(栗東)	108
7 ⑤	レーヴブリリアント	牡	3	57	Cルメール	クビ	11-11-12-12	37.4	448(+2)	10.4⑤	田中博康(美浦)	108
8 ⑥	ジェットマグナム	牡	3	57	津村明秀	ハナ	6-7-7-7	38.0	484(-4)	12.1⑩	安達昭夫(栗東)	108
9 ④	ニホンピロティヴィン	牡	3	57	小沢大仁	% 3-3-5-6	38.4	448(+6)	38.5⑩	緒方 努(栗東)	108	
10 ①	ダノンセンチュリー	牡	3	57	戸崎圭太	% 1-1-2-2	38.9	460(±0)	5.3③	萩原 清(美浦)	108	
11 ②	ローレルオーブ	牡	3	57	原 優介	% 9-9-10-11	37.9	460(+6)	217.3⑩	杉山佳明(栗東)	108	
12 ③	クモヒツヅナイ	牡	3	57	横山和生	10 2-2-3-3	40.3	472(-8)	24.0⑨	堀内岳志(美浦)	108	

単勝①410円(2%)* 複勝⑨170円(1%)* ⑩270円(6%)* ⑦180円(2%)* 枠連⑦-⑦2,300円(10%)*

馬連⑨-⑩2,150円(7%)* ワイド⑨-⑩710円(7%)* ⑦-⑩430円(1%)* ⑦-⑩900円(11%)*

馬単⑨-⑩3,170円(13%)* 3連複⑦-⑨-⑩3,550円(7%)* 3連単⑨-⑩-⑦21,400円(56%)*

5重勝③⑩⑥⑩⑩3,661,820円(152票) 対象競走: 阪神10R／中山10R／中京11R／阪神11R／中山11R



通過タイム : 600m 800m 1000m
 37.5 - 50.0 - 1:01.7 上り : 49.8 - 38.1

アラカルト

- ・石橋脩騎手はスプリングS初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算25勝目
- ・上原佑紀調教師はJRA重賞初勝利
- ・キタサンブラック産駒はJRA重賞通算18勝目
- ・ビコチャンブラックの父キタサンブラックは15年の優勝馬、父の父ブラックタイドは4年の優勝馬で、本競走初の父仔3代制覇を達成(84年のグレード制導入以降)
- ・ビコチャンブラック、フクノブルーレイク、キングスコールは皐月賞(G I)に優先出走できる

ピコチャンブラック *Piko Chan Black*

牡 黒鹿毛 2022.4.24生
北海道新ひだか町 チャンピオンズファーム生産
馬主・石部美恵子氏 美浦・上原佑紀厩舎
馬名意味・冠名十敬称十父名の一部

		バレーケイーンIRE系 F1- サンデーサイレンスUSA
キタサンブラック 鹿毛 2012	ブラックタイド 黒鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーアIRE
	シュガーハート 鹿毛 2005	サクラバクシンオー オトメゴロ
	ネオユニヴァース 鹿毛 2000	サンデーサイレンスUSA ボインテッドパスGB
	バレーケイーンIRE 鹿毛 1988	Sadler's Wells Sun Princess
トランプケイーン 鹿毛 2010		

5代までのインブリード: サンデーサイレンスUSA S3×M3
Lyphard S5×S5

INTERVIEW

菅原通次専務取締役(チャンピオンズマーク)

かなりレベルアップした感じました

パドックでの姿からこれまでと比べてかなりレベルアップしたなど感じましたので、期待してレースを見ていました。この世代の生産馬の中ではトップクラスの馬でしたが、怪我や病気もせずに順調に育ちましたので、牧場時代の印象は特に残っていません。あとは上原調教師にお任せして皐月賞、ダービーと順調にいってくれることを願うだけです。期待しています。

父キタサンブラック

北海道日高町 ヤナガワ牧場生産 中央20戦12勝(ジャパンC_{G1}、菊花賞_{G1}、有馬記念_{G1}、天皇賞(春)_{G1}2回、天皇賞(秋)_{G1}、大阪杯_{G1}、京都大賞典_{GII}、スプリングS_{GII})、年度代表馬2回、最優秀4歳以上牡馬2回、18年から供用
〔代表産駒〕イクリノックス(ジャパンC_{G1}、有馬記念_{G1}、天皇賞(秋)_{G1}2回、宝塚記念_{G1}、ドバイシーマクラシック・首_{G1})、ソールオリエンス(皐月賞_{G1}、京成杯_{GII}、日本ダービー_{G1}2着)、クロワデュノール(ホープフルS_{G1})、ウィルソンテソーロ(JBCクラシックJ_nI)、ガイアフォース(セントライト記念_{GII}、フェブラリーS_{GII}2着)、スキルヴィング(青葉賞_{GII})、他に重賞勝ち馬多数

母トランプクイーン

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央5戦0勝
モンサルヴァート(15 牝父ローエングリン)中央5戦0勝、地方21戦2勝
モモコ(16 牝父クロフネUSA)中央6戦0勝、地方13戦4勝
マヤチャン(17 牝父ロードカナロア)中央6戦0勝、地方7戦0勝
オーバンバル(18 牝父ルーラーシップ)中央17戦1勝
アオイトランプ(19 雄父ドレフォンUSA)中央4戦0勝、地方35戦6勝
ヴァークスティ(20 牝父ジャスタウェイ)中央7戦0勝、地方38戦2勝
ノリピー(21 牝父ニューアイザーズデイUSA)中央15戦1勝
ピコチャンブラック 本馬(22 牝父キタサンブラック)中央4戦2勝(スプリングS GII、アイビーS・L2着) 獲得総賞金68,894,000円
ピコマーキス(23 牝父ブリックスアンドモルタルUSA)④
(24 牡父ローレンス、25)

祖母バーゲーンRE

不出走 03年輸入 10年死亡

フヰン・コンカルド(93 韓國Caerleon)

スルガノ 菊井常(6-2 善)、種牡馬

みれいS_♀、菊化賞G_{III}3着)、種牡馬

グレースアドマイヤ(94 牝父トニービンIRE)中央5勝(府中牝馬S G_{III}2着)、
ヴィクトリー(皐月賞J_{pn} I)、**リンカーン**(阪神大賞典G_{II})の母

フサイチミニヨン(96 牝父サンデーサイレンスUSA)中央10勝、**アンブロワ**
ーズ(函館2歳S G_{III}、阪神ジュベナイルフィリーズG_{II}2着)の母

ボーンキング(98 牝父サンデーサイレンスUSA)中央2勝(京成杯G_{III}、弥生賞
G_{II}2着、アメリカカジョッキクラブC G_{II}3着)、種牡馬

アンライバルド(06 牝父ネオユニヴァース)中央4勝(皐月賞J_{pn} I、スプリン
グS J_{pn} II、若駒S_♀ 0着)、種牡馬

トランプサイマー(10 順位)
トランプサイマー(10 順位)

本来の能力を發揮一
年が明けてから多彩な新星が続々と名乗りをあげてきた桜花賞戦線に対し、皐月賞の主要なステップレースでは、歳時、クロフデュノールの重門に下つた馬たちが次々に勝利を飾っている。従来から日程が1週間繰り上げられたトライアル第2弾・ Sprinting S を制したのも、同様の戦歴の持ち主。2番人気に支持されたキタサンブラック産駒ピコチャンブランクが、ホープフル S の大敗から鮮やかに巻き返した。

全国的な悪天候に見舞われたこの日、重馬場を舞台に争われたレースは2月に東京の新馬戦を逃げ切り、3番人気に支持を集めたダノンセンチュリーが先導役を務めた。ピコチャンブランク

嬉
し
い
重
賞
初
制
霸
と石橋脩騎手のコンビには、スマーズに
折り合つて4番手を追走。昨年7月、
レコードで勝ち上がった札幌の新馬戦
以来の復帰戦ながら、1番人気に支持
されたキングスコールはスタートのタ
イミングが合わずに出遅れ、序盤は後
方を進んだが、向正面半ばから進出に
かかり、3番手まで位置を上げる。
石橋騎手もこの仕掛けに呼応して逃
げ馬に並びかけ、3コーナーからは2
頭が雁行。内で食い下がったダノンセ
ンチユリーは直線入口で力尽き、ピヒ
チヤンブルックが先頭へ抜け出す。タ
フな馬場で早めに動いたぶん、坂を駆
け上がつてからはさすがに脚色が鈍つ
たものの、ゴール前で猛然と追い上げ

昨年7月、福島の新馬戦を7馬身差で圧勝した本馬は、続くアイビーやもマスカレードボールの2着に食い込み、素質の高さをアピール。しかし3番人気の支持を集めたホープフルは若さを露呈した格好で集中力を欠き、大敗(13着)を喫した。その経験を踏まえ、「平常心で走れるように」とマニに掲げて中間の調教に取り組む一方ハミも換えて臨んだこの日は本来の能力を發揮。開業3年目の上原佑紀調教師とともに嬉しい重賞初制覇を果たし、中4週の間隔で挑む皐月賞に向けて反撃の狼煙をあげた。